

# 教育研究業績書

令和 7 年 3 月 31 日

氏名 増田 翼

研究分野	研究内容のキーワード	
教育学	教育学	
教育上の能力に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例		
1) Fレックス 第24回研究会「授業デザインと学習評価ーテスト以外のエビデンスー」(於: 仁愛女子短期大学)における発表「ルーブリックを用いた評価」	平成24年10月 26日	ルーブリックを使用した授業デザインについて発表した。
2) Fレックス 第6回 FD 合宿研修会セッション2: 分科会2「ラーニングポートフォリオの設計と評価～学習成果の可視化に向けて～」(於: 仁愛女子短期大学)における発表「学習内容は学生自身のもの！」	平成27年9月 9日	ラーニングポートフォリオの一事例として、短大授業で使用している紙ベースの「コメントシート」について、その概要および長所・短所などについて発表した。
3) FD 研修会 「学習成果」を意識した授業設計	平成28年9月 14日	成績評価がふるわない学生について、学生自身に原因を求めるのではなく、授業者の設計に問題があるとする(「なぜ学習成果が獲得できないのか」という問い)、以下の点が考え得ると指摘した。①授業内容の中身(DPとの関連)や順序性、②話し方・見せ方・時間の使い方、③「評価」のポリシー(学生一人ひとりのニーズを把握しているか)。
4) FD 研修会 仁短 Moodle 活用例 「YouTube を用いた非同期型オンデマンド授業の紹介」	令和2年5月 15日	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い授業が全面オンライン化されたことを受け、YouTube を用いた非同期型授業の事例紹介を行った。
2. 作成した教科書、教材		
1) 増田翼監修『私の読んだ一冊(2012年度)』仁愛女子短期大学附属図書館発行	平成24年9月 30日	担当科目「教育原理」(2012)の課題の一つとして設定した書評を集め、製本したもの。学内に配布した。
2) 増田翼監修『私の読んだ一冊(2013年度)』仁愛女子短期大学附属図書館発行	平成25年9月 30日	担当科目「教育原理」(2013)の課題の一つとして設定した書評を集め、製本したもの。学内に配布した。
3) 増田翼「保育職を選択するということ」 石川昭義・小原敏郎編『保育者のためのキャリア形成論』(建帛社、2015年、11-18頁)	平成27年2月	「著書」に再掲
4) 増田翼「保育思潮の変遷と子ども観(日本)」 吉田貴子・水田聖一・生田貞子編『新・保育実践を支える 保育の原理』(福村出版、2018年、183-197頁)	平成30年2月	「著書」に再掲

5) 増田翼「教育行政および学校経営の基礎」西本望編『いまがわかる教育原理(シリーズ知のゆりかご)』(みらい、2018年、130-141頁)	平成30年4月	「著書」に再掲
<b>3. 教育上の能力に関する 大学等の評価</b>  1) 仁愛女子短期大学「授業評価優秀賞2014前期」受賞 2) 仁愛女子短期大学「授業評価優秀賞2014後期」受賞 3) 仁愛女子短期大学「授業評価優秀賞2016前期」受賞 4) 仁愛女子短期大学「授業評価優秀賞2019前期」受賞 5) 仁愛女子短期大学「授業評価優秀賞2020後期」受賞 6) 仁愛女子短期大学「授業評価優秀賞2022前期」受賞 7) 仁愛女子短期大学「授業評価優秀賞2023後期」受賞	平成26年9月17日 平成27年3月23日 平成28年9月14日 令和元年9月18日 令和3年3月24日 令和4年9月21日 令和6年3月13日	半期ごとに調査している「学生授業評価アンケート」の集計結果によるもの。 半期ごとに調査している「学生授業評価アンケート」の集計結果によるもの。 半期ごとに調査している「学生授業評価アンケート」の集計結果によるもの。 半期ごとに調査している「学生授業評価アンケート」の集計結果によるもの。 半期ごとに調査している「学生授業評価アンケート」の集計結果によるもの。 半期ごとに調査している「学生授業評価アンケート」の集計結果によるもの。 半期ごとに調査している「学生授業評価アンケート」の集計結果によるもの。
<b>4. 実務の経験を有する者についての特記事項</b>  1) 日本学術振興会 二国間交流事業(中国との共同研究) 共同研究員  2) 勝山市成器南幼稚園 研究協力者  3) 福井県大学連携リーグ連携企画講座「こどもの育ち—遊びについて—」  4) 保育者ワークショップ「主体的に学ぶとは?—自己決定型学習について—」(於:仁愛女子短期大学)  5) 新人保育者スキルアップ講座「保育に活かす音の遊び」(於:仁愛女子短期大学)  6) 仁愛女子短期大学附属幼稚園 研究協力者	平成20年4月～平成22年3月  平成23年8月～平成24年9月 平成23年9月14日 平成23年11月26日  平成24年7月29日  平成25年4月～現在に至る	「日中教育学対話」というテーマのもと、日本・中国両国の共同研究者が相互訪問し、計4回のシンポジウムを開催した。また、中国訪問時には、実際に、北京師範大学、曲阜師範大学の構内見学や、北京師範大学実験小学(附属小学校)の授業風景を視察した。  勝山市における保幼小連携の進め方、具体的実践内容等への指導助言を行った。  人間にとって遊びとはどのような活動なのか、遊びがなぜ大切なのか等について講演した。  現場保育者の方を対象に、なぜ、自ら学び、自ら問いを発見し、自ら解決に向けて行動できる力(自己決定型学習力)が求められるのか、そしてどうすればこうした力が身につくのか等についてのワークショップを行った。  平成24年3月卒業生を対象に、保育現場で役立つ様々な音の遊びを体験した。  「つながりあってかがやいて—豊かな言葉を育むには—」の研究テーマのもと、平成27年10月に行われる公開保育に向けた研究内容および実践内容等への指導助言を行っている。

7) 福井県大学連携リーグ連携企画講座「躰」が変われば子どもも変わる？」	平成 25 年 8 月 9 日	一般市民を対象に、「躰」とは何か、「躰」の様々な方法、「躰」は衰退してきているのか、といった内容で講演した。
8) 保育者ワークショップ「カラダをひらく コトバをひらく ココロをひらく～歌う楽しさの原点にあるものは？～」（於：仁愛女子短期大学）	平成 25 年 11 月 16 日	現場保育者の方を対象に、楽しさから入る音楽指導とは、そしてその具体的な方法とは、という点を中心にワークショップを行った。
9) 勝山市子ども・子育て支援審議会 会長	平成 25 年 11 月 22 日～現在に至る	勝山市子ども・子育て支援事業計画策定のために勝山市市長より委嘱を受けたもの。審議会は、平成 25 年度に 3 回、平成 26 年度に 5 回実施し、平成 27 年 2 月 19 日に「勝山市子ども・子育て支援事業計画」の素案を勝山市市長に答申した。
10) 福井市 NPO 支援センター 市民活動団体交流会「つながるっさ 子育て編」	平成 26 年 8 月 29 日	NPO 団体交流会において、「親子も地域もつながって子どもの未来を考えよう！」というテーマのもと基調講演を行った。
11) 福井市 第 12 回子育て支援ボランティア養成講座「子どもの未来～大人からの継承～」	平成 27 年 7 月 3 日	福井市男女共同参画・子ども家庭センター・子育て支援室が主催となって、地域の保護者の子育てをボランティアで応援したい市民を対象に、子育て支援の知識修得を目的に開催されている「子育て支援ボランティア養成講座」の講師として 1 時間担当した。
12) 福井県民間保育園連盟主催パワーアップセミナー分科会「躰について考える」	平成 29 年 2 月 18 日	県内民間保育園に勤務する園長、保育士、栄養士、調理師、その他職員を対象とした研修会の講師（しつけに関する講演）。当日は分科会会場に 100 名ほどの参加者があった。
13) 南越保育研究会講演会「躰について考える」	平成 29 年 4 月 22 日	福井県南条郡南越前町の保育者を対象とした研修会の講師（しつけに関する講演）。当日は会場に 50 名ほどの参加者があった。
14) 勝山市立幼稚園のあり方検討懇話会 会長	平成 29 年 5 月～7 月	在園児減少に伴い、今後の勝山市立幼稚園のあり方について、広く市民その他関係機関の意見を反映させるために開催された懇話会（計 3 回）。
15) 福井県民間保育園連盟「保育の専門性について」	平成 30 年 4 月 21 日	学習指導要領改訂に伴い今後変化が予想される小学校教育に対して、保育・幼児教育が見失ってはならないものは何か、「保育の専門性」という視点で考察を行った。
16) 鯖江市民間保育園保育研修会「4 歳児の育ちについて」	平成 30 年 6 月 21 日	鯖江市内の私立保育園で勤務する保育士を対象に、4 歳児の発達と 4 歳児クラス運営について考察を行った。
17) 越前町保育士会研修会「新保育所保育指針について」	平成 30 年 8 月 21 日	越前町内の保育所で勤務する保育士を対象に、保育所保育指針の改定の要点について講演を行った。
18) 福井県特別支援教育センター研修講座 No.13 「気がかりな子を包み込む集団づくり（幼保・小）一個と集団をつないでいく保育者・教師の役割とは一」	平成 30 年 8 月 23 日	福井県特別支援教育センターが主催する全 15 回の研修講座のうち No.13 を担当。福井県幼児教育支援センターとの連携講座で、受講者には小学校教員をはじめ、保育士、幼稚園教諭、特別支援学校教員、その他関係者 150 名ほどがいた。
19) 大野市地区保育会「保育の専門性について」	平成 30 年 10 月 25 日	大野市内の園に勤める保育士を対象とした研修会。学習指導要領改訂に伴い今後変化が予想される小学校教育に対して、保育・幼児教育が見失ってはならないもの

20) 保育者ワークショップ「外国籍の子どもや保護者は何に困っているのか」 (於：仁愛女子短期大学)	平成 30 年 11 月 3 日	は何か、「保育の専門性」という視点で考察を行った。福井県内外国人住民数の増加に伴い、県内各地域の園において、外国籍の子どもや保護者にどのような支援をすればよいかを課題になりつつあるように思います。そこで今回は、入園手続きや日々の保育における対応の仕方、園全体での異文化理解の促進など、具体的事例も交えながら、多文化共生社会において求められる保育者の専門性と役割について考えてみましょう。
21) 福井県民間保育園連盟主催パワーアップセミナー講演会「保育者だからできること 保育者にしかできないこと」	平成 30 年 11 月 17 日	小学校以上の学校教員と保育者の違いを考えながら、「保育者だからできること」「保育者にしかできないこと」(保育の専門性)について講演した(300名ほどの出席者)。
22) 坂井市民間保育園研修会「新保育所保育指針による保育要録の書き方」	平成 30 年 12 月 20 日	平成 30 年度から様式が変更となる「要録」の書き方について、坂井市民間保育園の主任・年長担当の先生方に講演した。
23) 福井県児童館連絡協議会第 4 回児童厚生 2 級指導員研修会「表現活動」	平成 31 年 1 月 30 日	エンゼルランドにて、児童館で働く方々(児童厚生 2 級指導員資格取得を目指す方々)に対して「表現活動」の演習を実施。
24) 平成 30 年度保育士等キャリアアップ研修(保育実践)「保育における環境構成」	平成 31 年 2 月 14 日	福井県社会福祉協議会が主催している「保育士等キャリアアップ研修」の一講座。主に、3 年目までの新人保育者に対して「環境構成」の大切さを講演した。
25) 永平寺町幼児教育研究会研修会「指導要録・保育要録について」	平成 31 年 3 月 28 日	平成 30 年度から様式が変更となる「要録」の書き方について、永平寺町の幼稚園・幼稚園の先生方に講演した。
26) 鯖江市民間保育園 合同保育研修会「保育って楽しい!～「10 の姿」の視点について～」	平成 31 年 4 月 13 日	鯖江市内の私立園で勤務する保育士を対象に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の詳細を説明した。
27) 鯖江市民間保育園保育研修会「5 歳児の育ちについて」	令和元年 5 月 23 日	鯖江市内の私立園で勤務する保育士を対象に、5 歳児の発達と 5 歳児クラス運営について考察を行った。
28) 認定こども園新規採用教員研修「認定こども園教育・保育要領について」	令和元年 6 月 15 日	福井県幼児教育支援センター主催の新規採用教員研修。「教育・保育要領」の概要を説明した。
29) 鯖江市民間保育園保育研修会「4 歳児の育ちについて」	令和元年 6 月 20 日	鯖江市内の私立園で勤務する保育士を対象に、4 歳児の発達と 4 歳児クラス運営について考察を行った。
30) 福井県児童館連絡協議会児童厚生 2 級指導員研修会「表現活動」	令和元年 7 月 11 日	エンゼルランドにて、児童館で働く方々(児童厚生 2 級指導員資格取得を目指す方々)に対して「表現活動」の演習を実施。
31) 越前町保育士会研修会「連絡帳の書き方について」	令和元年 8 月 8 日	連絡帳を書く際の基本と注意点などについて講演を行った。
32) 鯖江市民間保育園保育研修会「気になる子について(4 歳児)」	令和元年 8 月 29 日	「気になる子」をどう捉えるべきか、どのように支援すべきか、といった基本的な点の確認を行った。
33) 鯖江市民間保育園保育研修会「指導要録・保育要録について」	令和元年 10 月 31 日	平成 30 年度から様式が変更となった「要録」の書き方について、鯖江市内の私立園で勤務する保育士を対象に講演した。
34) 令和元年度放課後子どもクラブ資質向上研修会「放課後に実践できる遊び・運動」	令和元年 11 月	全 3 回(福井県大、越前市文化センター、パレア若狭)にわたって、福井県内の放課後子どもクラブで働く方々を対象に、様々な遊びの紹介と実演を行った。
35) 越前町保育士会研修会「指導要録・保育要録について」	令和元年 12 月 19 日	平成 30 年度から様式が変更となった「要録」の書き方について、越前町で勤務する保育者を対象に講演した。
36) 坂井市保育研究会(5 歳児)「指導要録・保育要録について」	令和 2 年 1 月 29 日	平成 30 年度から様式が変更となった「要録」の書き方について、坂井市で勤務する保育者を対象に講演した。

37) 永平寺町すこやか子育て講演事業「スマホ育児：ちょっとだけでも分かっておきたいこと」	令和2年2月1日	松岡西幼児園の保護者会において、「スマホ育児」に関する講演を行った。
38) 令和元年度保育士等キャリアアップ研修（保育実践）「保育における環境構成」	令和2年2月12日	福井県社会福祉協議会が主催している「保育士等キャリアアップ研修」の一講座。主に、3年目までの新人保育者に対して「環境構成」の大切さを講演した。
39) 小浜市家庭教育講演会「スマホ育児：ちょっとだけでも分かっておきたいこと」	令和2年2月22日	小浜市中央公民館において、「スマホ育児」に関する講演を行った。
40) 認定こども園新規採用教員研修「認定こども園教育・保育要領について」	令和2年6月	福井県幼児教育支援センター主催の新規採用教員研修。「教育・保育要領」の概要を説明した（オンデマンドYouTubeにて実施）。
41) 玉ノ江こども園 園内研修 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは	令和2年7月4日	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）について説明するとともに、保育者から普段の子どもの様子を10の姿に重ねながら話してもらうことで、子どもの理解の方法について共有した。
42) 坂井松涛保育園 園内研修 「保育におけるドキュメンテーション活用について」	令和2年7月17日	ドキュメンテーションの具体的な作成方法や注意点の説明をした。また、普段、坂井松涛保育園が作っているドキュメンテーションを事例に挙げ、改善点などについて話し合った。
43) 福井県児童館連絡協議会児童厚生2級指導員研修会「表現活動」	令和2年10月1日	児童館で働く方々（児童厚生2級指導員資格取得を目指す方々）に対して「表現活動」の演習を実施。
44) 鯖江市民間保育園保育研修会 ①「遊びの中で子どもの学びを見取る力」 ②「指導要録・保育要録について」	令和2年10月、12月	鯖江市内の私立園で勤務する保育者を対象に、オンデマンドYouTubeを用いて、2回にわたる講習会を実施した。
45) 令和2年度保育士等キャリアアップ研修（保育実践）「保育における環境構成」	令和3年2月25日	福井県社会福祉協議会が主催している「保育士等キャリアアップ研修」の一講座。主に、3年目までの新人保育者に対して「環境構成」の大切さを講演した（オンラインZoomにて実施）。
46) 鯖江市民間保育園保育研修会「気がかりな子を包み込む集団づくり」	令和3年6月	鯖江市内の私立園で勤務する保育者を対象に、オンデマンドYouTubeを用いて講習会を実施した。
47) 認定こども園新規採用教員研修「認定こども園教育・保育要領について」	令和3年6月	福井県幼児教育支援センター主催の新規採用教員研修。「教育・保育要領」の概要を説明した（Zoomにて実施）。
48) 福井県児童館連絡協議会児童厚生2級指導員研修会「表現活動」	令和3年6月24日	児童館で働く方々（児童厚生2級指導員資格取得を目指す方々）に対して「表現活動」の演習を実施。
49) 令和3年度保育士等キャリアアップ研修（保育実践）「保育における環境構成」	令和3年8月27日	福井県社会福祉協議会が主催している「保育士等キャリアアップ研修」の一講座。主に、3年目までの新人保育者に対して「環境構成」の大切さを講演した（オンラインZoomにて実施）。
50) すずらん保育園園内研修「認定こども園への移行後の保育について」	令和3年10月15日	保育園から認定こども園への移行に向けて、必要な情報等の確認を行った。
51) 放課後児童支援員認定資格研修「子どもの遊びの理解と支援」	令和3年9月28日、11月2日、12月14日	株式会社ニチイ学館主催の研修会。主に、放課後児童クラブ等で働く職員の資質能力向上を目的とするもの。会場ごとに3日間の日程で実施した。

52) 鯖江市民間保育園保育研修会「歌う楽しさの原点にあるものは？」	令和4年6月	鯖江市内の私立園で勤務する保育者を対象に、オンデマンドYouTubeを用いて講習会を実施した。
53) 福井県児童館連絡協議会児童厚生2級指導員研修会「表現活動」	令和4年6月22日	児童館で働く方々（児童厚生2級指導員資格取得を目指す方々）に対して「表現活動」の演習を実施。
54) 幼児教育支援センター「幼児教育から小学校教育への接続講座：資質・能力を軸にした幼小接続」	令和4年8月3日	福井県内現場保育者および小学校教員を対象とした保幼小連携・接続に関する講演。コロナ対応のため、オンデマンドYouTube配信となった。
55) 福井県民生活協同組合子育て支援グループ職員研修「5領域・10の姿の再学習」	令和4年8月23日	子育て支援施設「ハーツきつず」で働く職員を対象とした、保育所保育指針に関する研修を実施。
56) 令和4年度保育士等キャリアアップ研修（保育実践）「保育における環境構成」	令和4年9月2日	福井県社会福祉協議会が主催している「保育士等キャリアアップ研修」の一講座。主に、3年目までの新人保育者に対して「環境構成」の大切さを講演した（オンラインZoomにて実施）。
57) みづこしこども園 園内研修「連絡帳の書き方」	令和4年10月28日	子どもの発達を捉えるポイントを踏まえながら、連絡帳の書き方について研修を実施した。
58) 令和5年度 鯖江市民間保育連盟保育研修会「子どもが対話する保育」	令和5年7月	鯖江市内の私立園で勤務する保育者を対象に、オンデマンドYouTubeを用いて講習会を実施した。
59) 公開講座「保育で使える動画編集」（於：仁愛女子短期大学）	令和5年8月26日	現場保育者向けに、スマホやタブレットの動画編集アプリを用いた簡単な動画づくりの方法について説明した。
60) 公開講座『「保育ドキュメンテーション」って、どういうこと？』（於：仁愛女子短期大学）	令和5年8月28日	「保育ドキュメンテーション」とは何かについて、参加者同士のグループワークを交えながら学習した（福井県私立幼稚園・認定こども園協会との共催）。
61) 公開講座「子どもの姿を捉える、とは言うけれど…」（於：仁愛女子短期大学）	令和5年8月29日	「子ども理解」とは何かについて、参加者同士のグループワークを交えながら学習した（福井県私立幼稚園・認定こども園協会との共催）。
62) 公開講座「カイコを育ててみよう！」（於：仁愛女子短期大学）	令和5年9月30日	生きているカイコを観察したり、繭から糸をとったりするなど、参加者同士で実際に体験しながら学習した。
63) 明新小学校文化講演会「しつけって難しいですよね？」	令和5年10月25日	明新小学校授業参加日に合わせた保護者対象の講演会において、しつけの話を行った。
64) 福井市公立保育研究会園長研修会「若い保育者を育てるには」	令和5年11月22日	福井市公立園園長を対象とした研修会。新人保育者、中堅保育者への関わり方を中心に講演した。
65) おおい町子育て世代包括支援センター「パパと子の教室」	令和5年12月16日	おおい町子育て支援センターが主催する父親向けの子育て支援行事にて、子どもと楽しく遊ぶ方法について説明した。
66) 社会福祉法人あすなろ会 園内研修「指導要録の書き方について」	令和6年2月2日	要録の書き方について、あすなろ会の各園（みづこし、めいりん、みどり葉）が合同になった研修会場において演習を行った。
67) 福井県社会福祉協議会令和5年度福祉職員生涯研修課程「中堅職員フォローアップ研修」	令和6年2月13日	保育現場で働く中堅職員を対象とした研修で、対面・オンライン併用のハイブリッド型で講演した。
68) 令和5年度保育士養成研究所第3回研修会「基調講演：高校・養成校・保育現場をつなぐ育成環境」と「シンポジウム：保育・保育職に魅力を感じてもらおうための広報戦略とは？」	令和6年2月18日	全国保育士養成協議会に加盟する養成校教員を対象としたオンライン研修会において、基調講演およびシンポジウムを担当した。

69) 福井市公私立園年齢別担当職員研修『保育ドキュメンテーション』について	令和6年2月	「保育ドキュメンテーション」とは何かについて、福井市の公立園・私立園で働く計700名ほどを対象に、オンデマンドYouTube配信による研修を行った。
70) 公益財団法人ふくい女性財団ファミリーサービスクラブ研修「学童保育における保護者や子どもとのかかわり方」	令和6年2月27日	鯖江市内の学童保育(放課後児童クラブ)で働く職員を対象に、子育ての本質や時代の変化について講演した。
71) 三国松涛こども園 園内研修「保育におけるドキュメンテーション活用について」	令和6年4月25日	三国松涛こども園で働く保育者を対象に、ドキュメンテーションの位置づけ、作成のポイントなどについて講演した。
72) 永平寺町 保育の資質向上研修会「子どもの人権を意識した保育体制」	令和6年5月	永平寺町の保育者、調理員、学童保育職員を対象に、保育現場で直面する可能性のある倫理的な問題について考える研修会を計2回実施した。
73) 社会福祉法人和楽園職員研修会『保育の楽しさ』について	令和6年6月6日	越前市内の5園を運営している和楽園グループの職員を対象に、保育職の楽しさ・魅力について考える研修会を実施した。
74) 鯖江市民間保育連盟 保育研修会「不適切保育について」	令和6年7月	鯖江市内の私立園で働く職員を対象に、保育現場で直面する可能性のある倫理的な問題について考えるオンデマンドYouTube配信研修を行った。
75) 公開講座「参加者みんなで、お店屋さんごっこします！」(於:仁愛女子短期大学)	令和6年8月22日	参加者同士によるグループワークを通して、お店屋さんを完成させ、お買い物ごっこまで実施した。子どものように遊び込むことで参加者のなかには様々な気づきが生まれたようだった(福井県私立幼稚園・認定こども園協会との共催)。
76) 令和5年度保育士等キャリアアップ研修(保育実践)「保育における環境構成」	令和6年8月23日	福井県社会福祉協議会が主催している「保育士等キャリアアップ研修」の一講座。主に、3年目までの新人保育者に対して「環境構成」の大切さを講演した(オンラインZoomにて実施)。
77) 福井県児童館連絡協議会児童厚生2級指導員研修会「シールアートを楽しもう！」	令和6年9月3日	児童館で働く方々(児童厚生2級指導員資格取得を目指す方々)に対して「表現活動」の演習を実施。
78) 越前市施設長研修会「子どもへの適切なかかわりやよりよい教育・保育を目指すための施設長の役割」	令和6年10月22日	越前市内の保育現場施設長を対象に、保育現場で直面する可能性のある倫理的な問題について考える研修会を実施した。
79) 大関保育園 園内研修「学びの世界を広げる保育」	令和6年10月29日	大関保育園で働く保育者を対象に、子どものつぶやきをどのように拾い保育に活かしていくかについて講演した。

80) 福井県社会福祉協議会令和6年度福祉職員生涯研修課程「中堅職員フォローアップ研修」	令和7年2月13日	保育現場で働く中堅職員を対象とした研修。受講者同士で交流するなかで、悩みや課題の共有、相互啓発、視野の拡大などを旨とする研修を行った。
81) 志比幼稚園：すこやか子育て講演事業「乳幼児期におけるメディアとの関わり方」	令和7年2月22日	志比幼稚園保護者を対象に、スマホ育児の実態に触れつつ、今後の子育てのあり方について講演を行った。
82) おおい町子育て世代包括支援センター「パパと子の教室」	令和7年3月1日	おおい町子育て支援センターが主催する父親向けの子育て支援行事にて、「新聞紙でごっこ遊びを盛り上げよう！」というテーマのもと参加者同士交流した。
5. その他		
1) 福井新聞「ただいまゼミ中（保育学）— 幼・保で活用実技習得—」	平成25年2月19日	科目「保育原理Ⅱ」における授業内容の取材記事。
2) 「ティーチング・ポートフォリオ」作成	平成25年3月20日	福井県学習コミュニティ推進協議会主催の「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」に参加し、これまでの教育業績を「ティーチング・ポートフォリオ」にまとめた。
職務上の実績に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許		
1) 小学校教諭1種免許状	平成17年3月	登録番号 京都府教育委員会 平16小1め 第116号
2) 小学校教諭専修免許状	平成19年3月	登録番号 京都府教育委員会 平18小専 第5号
2. 特許等 特になし		
3. 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 福井大学医学部 非常勤講師 （「前期：教育学」担当）	平成25年4月 ～令和元年 3月	看護学科生に対して、教育に関する基礎的知識修得のため、「看護教育」「看護教育学」の要素を交えながら授業を展開している（平成29年度より、医学科・看護学科合同の科目となった）。
2) 佛教大学通信教育課程 非常勤講師 （「春期：教育学演習」担当）	平成25年4月 ～平成28 年3月	通信教育課程在籍学生のスクーリング授業を担当。春期は例年、6月～7月にかけての3週分の日曜日に開講されている。授業内容は「保幼小連携」について主に講義した。
3) 佛教大学通信教育課程 非常勤講師 （「冬期：教育学講読」担当）	平成26年4月 ～平成30 年3月	通信教育課程在籍学生のスクーリング授業を担当。冬期は例年、12月3週目の土日と23日（祝）に開講されている。授業内容は「しつけ」について主に講義した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1) メレル・ヴォーリズと一柳満喜子	共訳	平成 22 年 11 月	水曜社	本書は、ボストンのジャーナリスト Grace Nies Fletcher が、関係者から取材し執筆した The Bridge of Love(E.P. Dutton and Co, Inc., 1967) の訳書である。カンザス生まれの貧しい青年(メレル・ヴォーリズ)と日本人の華族令嬢(一柳満喜子)の運命的な出逢いと生涯が綴られている本書の第 2 章から第 4 章(23-79 頁)の翻訳を担当した。
2) 日中教育学対話 III—新たな対話への発展・深化を求めて	共著	平成 22 年 12 月	春風社	日中両国の様々な教育学的課題を対話によって鮮明にしようとした本書において、第 14 章「〈旧教育〉から〈新教育〉への転換を意図する教育者たち—群馬県における大正新教育運動への道程およびその展開を中心に」(345 - 380 頁)の執筆を担当した。ここでは、明治末期から大正期にかけての群馬県教育者たちが主張した種々の教育論において、画一的、注入主義的なヘルバルト主義的教育(旧教育)への賞賛が、やがて稟性(個性)や自発性を有する子どもの学習へと目を向けようとする〈新教育〉の支持へと転換していくその様相を捉えようとした。またこうした作業を通じて、教育論があればこれかの二項対立に陥りやすい点、あるいは教育改革運動が教育の本質を追究するものとなりにくい点、などを指摘した。
3) 斎藤喜博教育思想の研究(佛教大学研究叢書)	単著	平成 23 年 3 月	ミネルヴァ書房	斎藤喜博(1911-1981)の教育思想の変遷を、社会的、文化的、教育的背景との連関を念頭に置き見ていくことで、〈初期〉では完成体への援助を目指す消極的な人間観・教育観を潜在させていた思想が、〈後期〉では到達点をあらかじめ定めず、不断の更新、無限の躍進を企図する積極的な人間観・教育観を潜在させるように変化したという点を浮き彫りにした。また、こうした思想の変遷に伴い、〈初期〉では子どもと教師とを主客分離の関係として捉えていたのが、〈後期〉に至り間主体的な把握へと変化したという点に彼の思想の特質と意義を見出した。
4) 保育者のためのキャリア形成論	共著	平成 27 年 2 月	建帛社	「保育者にとってキャリアとは何か」「保育者の専門性を高めていくとはどういうことか」について考察する本書において、第 2 章「保育職を選択すること」(11 - 18 頁)の執筆を担当した。この章は、小中学校・高等学校において児童・生徒がどのように保育職と出会うのかという点を見ていながら、保育者養成校で学ぶ学生自身の職業選択の意味について問い直す内容となっている。

4) 新・保育実践を支える 保育の原理	共著	平成 30 年 2 月	福村出版	<p>第 14 章「保育思潮の変遷と子ども観（日本）」を執筆。近代教育制度の成立に伴い開設された東京女子師範学校附属幼稚園を皮切りに、日本国内に幼稚園が普及していく過程、ならびに救済事業としての託児所（保育所）が求められていく過程を中心に、日本の保育・幼児教育の歴史を概観したもの（pp. 183 - 197）。</p> <p>吉田貴子、水田聖一、生田貞子、北後佐知子、加藤望、野口隆子、広瀬美和、境愛一郎、中村恵、<u>増田翼</u>、ほか</p>
5) いまがわかる教育原理（シリーズ知のゆりかご）	共著	平成 30 年 4 月	みらい	<p>第 10 章「教育行政および学校経営の基礎」を執筆。教育行政の基盤にある法的枠組みとして、日本国憲法、教育基本法、学校教育法等関係法令に触れるとともに、保育・幼児教育行政の今後について論じた。加えて、「規制緩和」「地方分権化」に伴う近年の学校経営改革（開かれた学校づくり）と「チーム学校」についてまとめた（pp. 130 - 141）。</p> <p>西本望、井谷信彦、猪熊弘子、大倉健太郎、尾場友和、久保田健一郎、<u>増田翼</u>、ほか</p>
<p>(学術論文)</p> <p>1) 斎藤喜博における人間観と教育観（修士論文）</p> <p>2) 『教室愛』における斎藤喜博の人間観</p> <p>3) 斎藤喜博教育思想の基底としての前半生（I）</p>	<p>单著</p> <p>单著</p> <p>单著</p>	<p>平成 19 年 3 月</p> <p>平成 19 年 6 月</p> <p>平成 20 年 3 月</p>	<p>佛教大学</p> <p>『関西教育学会年報』通巻 31 号（41-45 頁）</p> <p>『佛教大学教育学部学会紀要』第 7 号（225-235 頁）</p>	<p>斎藤喜博に関する先行研究には、彼の教育実践の内容をまとめるものや、授業を分析するものが少なくない。しかし、これでは斎藤喜博を断片的に見るにとどまるだけで、彼の人間そのものを総合的に見たことにはならない。そこでこの研究では斎藤における人間観と教育観の解明を通じて、一人の人間としての斎藤喜博の全体像を浮き彫りにすることを目的とした。具体的には彼の生涯における人間観の変遷に応じて時期区分を設け、その移り変わりを捉えるとともに、こうした人間観が教育観へどのように反映したのかを見ていった。</p> <p>斎藤喜博の処女作『教室愛』（1941）が書かれた〈初期〉斎藤の人間観と、島小学校に代表される後の斎藤の人間観とは性格が異なることを明らかにした。また、〈初期〉斎藤の人間観が形成されるに至る背景として、当時の内向的、独我的で弱々しく、30 代まで生きられたらそれによいと考えていた斎藤の境涯や、当時の教育的背景について見ていった。</p> <p>斎藤喜博の教育思想の基底に横たわる前半生での〈基礎経験〉に着目し、それらが、どのように彼の教育思想の独自性や特質へとつながるのか、はたまた教育思想の展開を制約し限界づけてしまうのかを解釈学的に捉え直そうとした。本稿（I）では、彼が生まれ育った上州という土地に存する固有の風土について取り上げ、幼児期、児童期の斎藤が、利根川や川辺の自然に浸りきった生活のなかで、種々の予感（Ahnung）や憧憬（Sehnsucht）を抱くことで、自分を超越していく体験を多くしたのだと考察した。</p>

4) 東井義雄の人間観・教育観にみられる仏教思想	単著	平成 20 年 3 月	『日本仏教教育学研究』第 16 号 (141-145 頁)	東井義雄 (1912-1991) における人間観・教育観を明らかにするなかで、その根底に横たわっている仏教思想の存在について考察した。その際、斎藤喜博の人間観・教育観との比較を試みることによって、斎藤においては、子どもの可能性を引き出すという教師の自力的で創造的な面を強調する人間観・教育観が支持されているのに対して、東井においては、〈生かされている〉という種々のつながりを重視する人間観・教育観が支持されている点を明らかにした。
5) 斎藤喜博における理論と実践の捉え方 (査読付)	単著	平成 20 年 6 月	『関西教育学会研究紀要』第 8 号 (34-47 頁)	斎藤喜博における理論・実践関係の構造把握の特徴は、①〈人間の豊かさ〉が理論と実践の相補的關係を成立させると強調し、②タクトが発現するための条件を、理論と実践の蓄積の結果生じる〈カンや洞察力〉が教育者＝人間に備わっているかどうかに見ている、という以上二点にあることを見出した。さらに、教育者のタクトは如何にして形成され磨かれていくのかという点について、この研究では、タクト (技能) そのものに焦点を当てるだけでなく、〈人間の豊かさ〉も併せて涵養していくような教員養成の在り方を考える必要があると提言した。
6) 中期斎藤喜博における人間観・教育観	単著	平成 20 年 6 月	『関西教育学会年報』通巻 32 号 (1-5 頁)	終戦後、〈初期〉斎藤喜博の人間観・教育観が、彼の生活の変化や生活そのものとの関いを通じて次第に変化し、〈中期〉の性格を表し始める点を明らかにした。具体的には、彼が生家から離れ所帯を持ち、貧しい中にも守るべきものができたという点、また教員組合運動に参加し、さらには常任執行委員文化部長として、学校外にも目を向け始めたという点が、無数の軋轢に挟まれて生活せざるを得ない人間の現実の把握と、そうした抑圧状態からの解放という理想とを統一させ、〈中期〉の性格へと変化していったのであると結論づけた。
7) 斎藤喜博において「無限の可能性」とは何を意味したのか	単著	平成 20 年 8 月	『日本教育学会大会発表要旨集録』67 (80-81 頁)	斎藤喜博が「無限の可能性」という言葉を語り出すまでの軌跡を辿ることで、彼においてこの言葉が何を意味したのかという点を明らかにした。また、「無限の可能性」という言葉の誕生には、1960 年前後の時代背景が緊密に関係しているのではないかとこの点について、いくつか例証を試みた。
8) 斎藤喜博教育思想にみられる「無限の可能性」という言葉について (査読付)	単著	平成 21 年 3 月	『佛教大学大学院紀要』教育学研究科篇、第 37 号 (19-36 頁)	斎藤喜博における「無限の可能性」という言葉について、その誕生過程を明らかにするとともに、彼における「無限の可能性」という言葉の意味内容について詳察した。とりわけ、この研究では、教育事象を論じる際の〈論じ方〉に着目する教育社会学的な観点も取り入れながら、「無限の可能性」を一つの「教育言説」として捉え返そうと試みた。その結果、「無限の可能性」という「教育言説」誕生には、1960 年前後の時代背景が緊密に関連しており、なかでも、当時、一種の標語 (スローガン) としてこの言葉が多く喧伝されていた点を明らかにした。

9) 斎藤喜博教育思想の基底としての前半生(Ⅱ)	単著	平成 21 年 3 月	『佛教大学教育学部学会紀要』第 8 号 (139-150 頁)	(Ⅰ)に続いて本稿(Ⅱ)では、斎藤喜博の前半生における、家族からの影響と、幼児期、児童期の斎藤について考察した。特に、斎藤少年が十分に温かな家族の愛に生まれ、信頼の世界の内に存在し得たこと、さらに、そうした〈被包感〉に支えられた結果、周囲の様々な事象に人一倍関心を寄せながら成長し得た点を浮き彫りにした。また、内気で、自分に引け目を感じ、一人で過ごすことの多かった幼児期、児童期の斎藤が、どのような世界のなかに生きていたのか、またその世界のなかで彼が何を求めて生きていたのか、という点を明らかにした。
10) 東井義雄の「教育実践の一般化・科学化」論	単著	平成 21 年 3 月	『日本仏教教育学研究』第 17 号 (88-92 頁)	東井義雄の論考「教育実践の一般化・科学化」(1959)を中心に見ていながら、教育実践の〈一般化・科学化〉という問題に対して、仏教者である東井がどのような考え方を示したのかを浮き彫りにした。特に、当時の教育者たちが、教育の〈一般化・科学化〉とは、原理原則や法則性を見出すことだと考え、合理性や普遍性を追求しようとしたのに対して、東井は、矛盾と知りながらも「熱」や「喜び」を消失しないような記述を通して教育の〈一般化・科学化〉を目指そうとした点を明らかにした。
11) 後期斎藤喜博における人間観・教育観	単著	平成 21 年 6 月	『関西教育学会年報』通巻 33 号 (1-5 頁)	〈初期〉から〈中期〉を経てきた斎藤喜博が、教師生活 30 年目の 1960 年に刊行した『未来誕生』において、「教育は……無限の可能性を子どものなかから引き出すことに本質がある。どの子どももが、持っている力を、十分に伸ばし発展させるとともに、子どものなかにないものをもつくり出させ、引き出してやることこそが、教育における本質的な作業である」と述べた一節を中心に、〈後期〉斎藤の人間観・教育観の特質を考察した。
12) 斎藤喜博の教育思想に関する研究—その変遷ならびに特質と意義— (博士論文)	単著	平成 22 年 3 月	佛教大学	斎藤喜博の教育思想の変遷を、社会的、文化的、教育的背景との連関を念頭に置き見ていくことで、〈初期〉では完成体への援助を目指す消極的な人間観・教育観を潜在させていた思想が、〈後期〉では到達点をあらかじめ定めず、不断の更新、無限の躍進を企図する積極的な人間観・教育観を潜在させるように変化したという点を浮き彫りにした。また、こうした思想の変遷に伴い、〈初期〉では子どもと教師とを主客分離の関係として捉えていたのが、〈後期〉に至り間主体的な把握へと変化したという点に彼の思想の特質と意義を見出した。
13) 〈子どもの可能性〉という見方の出現—1950 年代後半から 1960 年代前半にかけての教育論を中心に—	単著	平成 22 年 6 月	『関西教育学会年報』通巻 34 号 (31-35 頁)	50 年代後半から 60 年代前半にかけての日本における種々の教育論の中で、〈子どもの可能性〉という見方が広く普及していく様子を、教育事象の〈論じ方〉に着目する教育社会学的な観点も取り入れながら、以下三つの系譜に従って考察した。①能力別教育を批判する際の理論的根拠(能力の固定性を否定、子どもの無限の可能性を信じる)、②権力的教育排除と創造的教育の展開を推進するスローガン(子どもの可能性の伸長こそ教育者の役目、教育者の責任)、③ソビエト教育学、心理学からの影響(生得的自然性と環境との相互作用を強調)。

14) 日本と中国における幼児教育思想交渉史—先秦代から明代における中国幼児教育思想の根本原理—	単著	平成 23 年 3 月	『仁愛女子短期大学研究紀要』第 43 号 (51-59 頁)	中国からどのような子ども観、子育て観が日本への伝播したのかを詳らかにすることを研究の目的としたうえで、その基礎的作業として、先秦代から明代における中国幼児教育思想の根本原理を中心に見ていった。とりわけ〈慎始〉という根本原理が胎教思想や環境重視の早期教育論へとつながっていったことを明らかにした。
15) 福井県における大正新教育運動に関する研究	共著	平成 24 年 3 月	『仁愛女子短期大学研究紀要』第 44 号 (39-48 頁)	福井県私立教育会発行の『福井県私立教育會雑誌』・『福井県教育會雑誌』や福井県教育会発行の『福井県教育雑誌』・『福井県教育』、あるいは福井県教育会と福井県自治協会共同発行による『教育と自治』の記事内容を中心にしながら、当時の福井県教育者らが、〈旧教育〉に対して自ら〈新教育〉を表明し転換を図ろうとするその様相を、つまりどのように〈旧教育〉を批判、否定するという立場を確立し、自らの考えを〈新教育〉の内部に位置づけていくのかという点を明らかにした。  共著者名：増田翼、松川恵子
16) 福井県における戦前の保育の動向について(1)	共著	平成 24 年 3 月	『仁愛女子短期大学研究紀要』第 44 号 (49-55 頁)	福井県における明治 20 年代から第二次世界大戦前までの保育の動向について、各保育施設の系譜を捉えることを研究の目的としたうえで、今回は福井県で一番初めに設立されたとされる小浜尋常高等小学校附属保育科の沿革に焦点を当てた。  共著者名：松川恵子、増田翼
17) 勝山市における保幼小連携の実践について	共著	平成 24 年 4 月	『日本保育学会第 65 回大会要旨集』(467 頁)	福井県内の保幼小連携の取り組みへの助言的参加経験を踏まえ、連携を進めていく立場になった現場保育者の意識変容過程について注目したもの。保幼小連携の実践者が〈連携の意義・目的〉に対する自分の意識をどのように変容させ、また〈連携の課題〉をどのように克服するのか、というプロセスに着目した結果、計画・準備・打合せ等の日程確保が難しく、実践者同士の有意義な交流にまで至っていない現状が明らかになった。  共著者名：増田翼、松川恵子
18) 福井県における大正新教育運動への道程およびその展開	単著	平成 24 年 6 月	『関西教育学会年報』通巻 36 号 (26-30 頁)	明治末期から昭和初期にかけての福井県において、〈旧教育〉から〈新教育〉への転換が如何にして起こったのかを明らかにした。特に今回は、当時の福井県内の大多数の教育者に新教育思想がどのように広まったのか、という〈普及過程〉に焦点を当てた。
19) 丹澤美助の〈新注入主義教育〉に関する一考察	単著	平成 25 年 3 月	『仁愛女子短期大学研究紀要』第 45 号 (53-62 頁)	昭和初期にかけて「新注入主義」を提唱し、当時の日本教育界全体に多くの反響と論争を巻き起こした丹澤美助(1880-1968)の思想と生涯に焦点を当て考察した。
20) しつけ研究の系譜と課題	単著	平成 26 年 3 月	『仁愛女子短期大学研究紀要』第 46 号 (73-82 頁)	2013(平成 25)年までのおよそ 100 年間に日本で出されたしつけ研究を対象に、その系譜を①民俗学、②心理学、③社会学、④教育学という区分にしたがって描き出すとともに、その作業から見えてくるしつけ研究における課題について論じた。

21) しつけ方略の分類に関する一考察	単著	平成 26 年 4 月	『日本保育学会第 67 回大会要旨集』(855 頁)	先行研究におけるしつけ方略の分類傾向を示すとともに、未だ着目されていないしつけ方略の新分類について、とりわけ「虚構因果型」「交渉型」を取り上げながら考察した。
22) なぜ「しつけ」に悩まされるのか	単著	平成 27 年 4 月	『仁愛女子短期大学研究紀要』第 47 号 (57-66 頁)	しつけを〈事後統制〉と〈事前統制〉という二つの「社会統制」手法から捉え直すことで、〈しつけに悩まされる〉という現象について考察した。また論の最後では、しつけに悩まされないために、今を乗り切りその場をやり過ごすための〈環境統制〉という手法が広がりつつあるのではないかと警鐘を鳴らした。
23) しつけ研究の課題を再検討するーしつけ研究の成果はしつけ手に届いているのかー	単著	平成 28 年 4 月	『仁愛女子短期大学研究紀要』第 48 号 (59-68 頁)	①しつけ手を取り巻く環境とはいかなるものなのか、②しつけ研究の成果はなぜ活かされていないのか、という 2 点について見ていくことで、これまでのしつけ研究の〈枠組み〉やしつけ研究者自身の〈姿勢〉を根底から問い直すことを試みた。
24) リスク回避型社会における「安全教育」の意義について	単著	平成 29 年 4 月	『仁愛女子短期大学研究紀要』第 49 号 (91-100 頁)	子どもにとって「安全」とは何であるか、さらには子ども自らの安全意識を高めるための「安全教育」はどうあるべきかについて考察した。とりわけ、危険を子どもから遠ざけることが当然の社会＝リスク回避型社会にあって、「安全教育」のもつ意義とは何かについて議論をまとめた。考察の過程においては、「学校安全」における「安全教育」「完全管理」について、また保育現場における危機管理等含めた「安全教育」「安全管理」について、各家庭でのしつけのなかに見られる「安全教育」「安全管理」に触れている。
25) 保育者養成課程における教科目「教育原理」の位置づけと役割について	単著	平成 30 年 2 月	『仁愛女子短期大学研究紀要』第 50 号 ( pp. 97-105)	教職課程および保育士養成課程というカリキュラムの二元性を意識した授業設計が求められる教科目「教育原理」の位置づけや役割について考察した。特に、受講学生たちが小学校以降の学校教育とは異なる保育・幼児教育の独自性をいかに学んでいくのか、という点に焦点を当てて論を展開した。
26) 保育者養成校を取り巻く現状と本学における課題	単著	平成 30 年 3 月	『福井県内保育者対象アンケート調査研究報告書』( pp. 2-12)	福井県内保育者を対象に実施したアンケート調査結果をまとめるに当たり、ここ数年、様々な改革が迫られている保育者養成校の現状と、本学幼児教育学科特有の課題について整理した。
27) 高校・養成校・保育現場をシームレスにつなぐ育成環境の構築に向けて：「教員育成指標」作成事例を手がかりに	単著	平成 31 年 5 月	『仁愛女子短期大学研究紀要』第 51 号 ( pp. 59-69)	保育者養成校を取り巻く課題の解決に向けて、高校ー養成校ー保育現場という三者間を切れ目なくつなぐことの意義を考察した。また、接続時に生じるギャップを少しでも解消するために、保育職志望段階から現場保育者（管理職段階）に至るまでの継続的発展的「キャリア・ルーブリック」を開発するために、留意点などを「教員育成指標」作成事例を手がかりにしながらまとめた。

28) 保育学における理論=実践問題としての保育者の専門性：日本保育学会第72回大会における自主シンポジウムの記録	共著	令和元年10月	『国際研究論叢：大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部紀要』33(1) (pp.95-111)	102-105頁の「地方小規模短大における保育の〈理論・実践〉問題の捉え方：今後の保育者育成環境を考える」の執筆を担当した。 久保田健一郎、濱中啓二郎、吉田直哉、田口賢太郎、 <u>増田翼</u> 、稲井智義
29) 保育学における理論=実践問題としての保育者の専門性の追求—日本保育学会第72回大会における自主シンポジウム後半の記録：問題の討議と深化—	共著	令和2年2月	『新渡戸文化短期大学学術雑誌』第10号 (pp.23-34)	日本保育学会第72回大会の自主シンポジウムにおける討議内容を文章化したもの。27-28頁にわたる部分で、ブランディング事業の課題等に触れた自らの発言内容をまとめた。 濱中啓二郎、久保田健一郎、吉田直哉、田口賢太郎、 <u>増田翼</u> 、稲井智義
30) 保育職への接続・適応に関する先行研究の系譜と課題(1)—保育職志望段階に着目して—	単著	令和2年3月	『仁愛女子短期大学研究紀要』第52号 (pp.63-73)	保育職を志望する段階(高校生)の現状を明らかにするために、この点に関する先行研究の系譜と課題をまとめた。
31) 人口減少地域において保育職への接続・適応をどう考えるべきか—『円滑な移行の促進』がもたらすメリットとデメリットについて—	単著	令和2年8月31日	『関西教育学会年報』通巻44号(116-120頁)	令和元年11月の学会にて口頭発表を行った内容を精査し、加除修正したうえで論文化したものの。ブランディング事業で目指しているルーブリック開発のメリットと想定されるデメリットについてまとめた。
32) 保育職への接続・適応に関する先行研究の系譜と課題(2)—養成校学生から現場保育者への移行に着目して—	単著	令和3年3月31日	『仁愛女子短期大学研究紀要』第53号 (pp.55-64)	養成校学生から現場保育者への移行に関する現状を明らかにするために、この点に関する先行研究の系譜と課題をまとめた。
33) コロナ禍におけるオンライン教育を経験して—「ある場所に集う」ことの教育学的試論—	単著	令和3年6月	『中部教育学会紀要』第21号 (pp.1-14)	特集「コロナ禍における学校と教育を考える」に寄稿した論文。オンライン教育が主流となつて初めて気づいた「集う」ことの教育学的意味について考察した。
34) 保育における数量・図形に関する先行研究の系譜と課題—乳幼児の数学的能力とそれらを育む保育に焦点を当てて—	単著	令和4年3月31日	『仁愛女子短期大学研究紀要』第54号 (pp.53-62)	乳幼児の数学的能力とそれらを育む保育に関する先行研究の系譜と課題を明らかにした。具体的には、先行文献を1乳幼児期における数学的能力発達に関する研究、2保育における数学的な環境構成および指導・援助に関する研究、3家庭環境および保護者の役割に関する研究、と分類したうえで各々の系譜をまとめた。

35) 保育における「自由」の再検討 — 自由を/自由に育てるとはどういうことか? —	単著	令和5月3月31日	『仁愛女子短期大学研究紀要』第55号 (pp.39-45)	「自由」を尊重するとは具体的にはどういうことか、子どもの「自由」を保障する保育者の環境構成とは、という二つの問いについて、保育学分野の知見に限らず、政治哲学・道徳哲学分野におけるリベラリズム論なども参考にしながら明らかにした。
36) 保育者養成課程における倫理教育のあり方について	単著	令和6月3月31日	『仁愛女子短期大学研究紀要』第56号 (pp.59-67)	実際の保育現場を想定し、状況に応じて「どうすべきか」を見極め適切な行動を実行する、といった倫理的判断能力の育成に向けた省察的な学習が不足している現状を明らかにしたうえで、今後の保育者養成課程における倫理教育のあり方について論じた。
(その他)				
1) いのちにふれる	単著	平成20年3月	『啐啄』第11号、京都文教短期大学照屋研究室 (p.4)	東井義雄を紹介したコラム。子どもは、「いのちにふれてくれるものがないことが、どんなにさびしいことであり、いのちにふれてくれるものを見出すことが、どんなに元気の出ることなのかを、訴えている」と語る東井においては、そもそも〈いのちといのちがふれあう〉ことこそが、人間形成を育む根本の力だと捉えられていた、と紹介した。
2) コロナ禍における短期大学の取り組みについて	単著	令和3年3月	『生徒とともに』第66号、福井高教組教育研究会議 (pp.13-19)	新型コロナウイルスの影響でオンライン授業などを実施している短期大学教育の実際と様々な課題についてまとめた。
3) 図書紹介 橋本美保・田中智志編著『大正新教育の実践：交響する自由へ』	単著	令和3年11月	『教育哲学研究』第124号、(pp.254-256)	新しく刊行された『大正新教育の実践：交響する自由へ』の図書紹介をした。
<b>【口頭・ポスター発表】</b>				
1) Transition Issues in Japanese ECEC Professional Development.	単独	2019.9.6.	OMEPA Asia Pacific Regional Conference 2019 in KYOTO, JAPAN.	保育学に関する国際組織(OMEPA)が主催するアジア太平洋地域会議において研究ブランディング事業を紹介するポスター発表を行った。
2) 人口減少地域において保育職への接続・適応をどう考えるべきか—『円滑な移行の促進』がもたらすメリットとデメリットについて—	単独	令和元年11月16日	関西教育学会第71回大会、関西学院大学	円滑な移行を促進あまり見失われるものがあるのではないか、という問題意識のもと、そのメリットとデメリットについてまとめ発表した。

3) 保育の原理はなぜ伝わらないのか～遊びよりも勉強・習い事を重視する風潮にどう向き合うか～	単独	令和2年3月1日	日本保育者養成教育学会第4回大会、福山市立大学	遊び中心、環境を通して行う保育、といった保育の原理が保護者に伝わらないのはなぜか、また保育現場においてどうすれば保護者に伝えられるのか、について考察しポスター発表にまとめた（コロナ感染症の影響で学会中止に）。
4) 保育者の職能を論じる際の用語の混乱について～「資質」「能力」「専門性」をどう使い分けるか～	単独	令和2年5月16日・17日	日本保育学会第73回大会、奈良教育大学	〈ある職務を遂行するうえで必要とされる要件〉を表す用語としての「資質」「能力」「専門性」の違いを詳らかにすることを目的に、この3語の保育・教育界における経緯についてまとめた（コロナ感染症の影響で学会中止に）。
5) コロナ禍での「教員免許状更新講習」「現職者研修」オンライン化の試み：福井県の事例	単独	令和2年12月6日	日本乳幼児教育・保育者養成学会/保育教諭養成課程研究会 第1回研究大会	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から「教員免許状更新講習」や「現職者研修」をオンライン化したことに伴うメリット・デメリットや様々な課題について事例報告を行った。